

橋本市共育コミュニティ推進協議会
橋本市学校運営協議会連絡協議会
合同研修会

学校長視点での学校運営協議会について



橋本市立高野口小学校
校長 榊 洋史

令和7年12月10日

本日のキーワード

「ウェルビーイング」

ウェルビーイングとは？

Well-Being

※身体的・精神的・社会的に良い状態にあること【要素】

※短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含む【時間】

※個人（私の幸せ）と集団（私たちの幸せ）がともに幸せを感じられる良い状態を含む【空間】

※楽しくて幸せ（享楽）、学びに没頭して幸せ（成長）の両面を含む【場面】

身体的

健康感

成長感

持続感等



精神的

達成感

充実感

肯定感等



社会的

受容感

貢献感

有用感等



ウェルビーイング

- 「幸せ」と「ウェルビーイング」との違い
- Happiness = より短期的で個人的な状況評価・感情状態
- **Well-being** = より包括的で、個人のみならず
個人を取り巻く「場」が持続的に
よい状態であること

・身体的・精神的・社会的に良い状態にあること、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念（文部科学省）

現行の学習指導要領の理念として
「社会に開かれた教育課程」

次期学習指導要領(2030～)
「社会に開かれた教育課程」

+

「個人と社会のウェルビーイング
の実現」



次期学習指導要領に向けた基本的な考え方②

- ③実現可能性の確保は、第一・第二の方向性の両立を支え、実現可能とする観点であり、デジタル学習基盤の更なる充実、教科書や教材、指導書の改善、必要な設備の整備、総合的な勤務環境整備とも相まって審議全体に徹底させるべき第三の方向性である。
 - ✓ このため、教育課程の枠組みや教科等横断的な事項、今後行われる教科等WGを含む審議全般にわたって、教育課程の実施に伴い教師に過度な負担・負担感が生じないような、持続可能な在り方を追求し、教師と子供の双方に「余白（※）」を創出することで、豊かな学びに繋げる方向を踏まえた検討を行う必要がある。 （※）教育の質の向上のための時間的余裕
- こうした3つの方向性を現時点で端的に表現すれば、「多様な子供たちの『深い学び』を確かなものに」と言える。第一の方向性は「深い学び」、第二の方向性は「多様な子供たち」、第三の方向性は「確かなもの」という言葉に主に託されている。
- さらに、「みんな」が示す主体は、学校教育の未来を切り拓く中心的存在である学校の教職員はもとより、**学びの当事者である子供**、人口減少の中で学校を支える主体でもある、**保護者や地域住民、地方公共団体の職員、民間の担い手**も含まれ、「**社会に開かれた教育課程**」や「**個人と社会のウェルビーイングの実現**」といった理念とも深く関わる。今後、各WG等を中心に具体的な議論を進める中で、こうした考え方も更に深めていく必要がある。

2 自らの人生を舵取りする力と民主的な社会の創り手育成

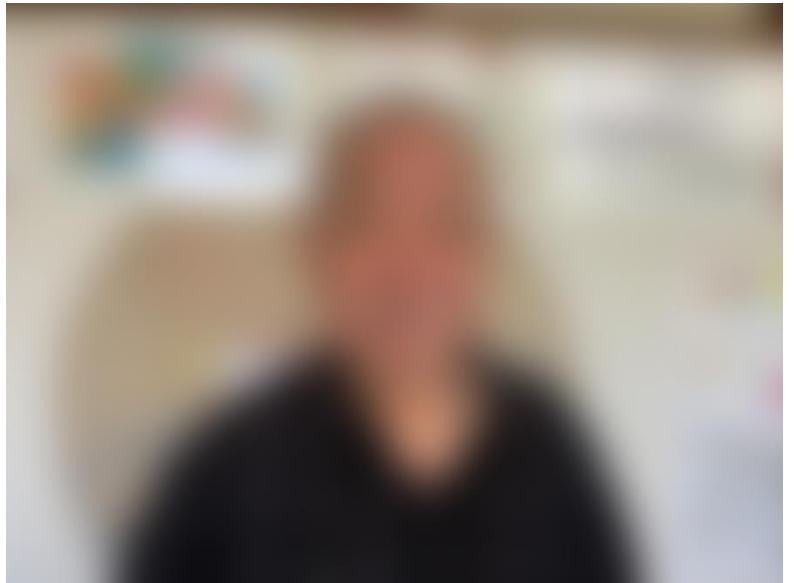
- 諮問で「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却し、民主的かつ公正な社会の基盤としての学校を機能させる必要性が指摘された背景には社会全体の構造変化がある。生成AIなどデジタル技術の発展が相まって、皆と同じことができることも重要だが、それ以上に独自の発想や視点に価値が置かれるようになってきている。現在の学校教育の中で主体的に学びに向き合えていない子供も多くなっている。少子化に伴う入試による動機付けの変化、学習時間の減少等も踏まえ、学びの動機付けをアップデートする必要もある。予測困難な時代に、労働市場の流動化や就業期間の長期化、マルチステージの人生モデルへの転換が進む中、しなやかに「**自らの人生を舵取りできる力**」が不可欠となりつつある。また、内なる国際化で人口の多様性が増すとともに、SNSや生成AIの負の側面の影響もあり社会分断の可能性等も指摘される中、デジタル時代に主体的に社会参画する「**民主的な社会の創り手**」の育成も喫緊の課題である。こうした考え方は、教育基本法や学校教育法等の趣旨を踏まえたものである。
 - ✓ このため、全ての幼児児童生徒に育むべき資質・能力育成の具体化・深化と並行して、一人一人の「好き」（興味・関心）を育み、「得意」を伸ばしながら、それらを原動力として学び全体への動機付けを図っていく取組と、**当事者意識を持って、自分の意見を形成し、多様な他者と対話や合意を図る取組**を同時に進め、これらが有機的に関わり合い高まっていく教育課程に変革していく必要がある。
 - ✓ こうした問題意識の下、本部会では、**学びに向かう力、人間性等**の概念の再整理、総合的な学習・探究の時間を中心とした質の高い探究的な学びの実現、デジタル化の負の側面への対応を含む情報活用能力の抜本的向上、特別活動を中心とした**主体的な社会参画に関わる教育**の改善、個性・特性に応じた学びの充実に繋がる**裁量的な時間の創設**等を主な具体策として議論してきた。今後、各WG等で更に検討を深める必要がある。

なお、これらは、①「主体的・対話的で深い学び」の実装、②多様性の包摂、という方向性について、**社会全体の構造変化を踏まえて具現化するものであり**、①②の一部を構成するものである。また、「よりよい学校教育」を通じて「よりよい社会」への移行を図るという意味で、「**社会に開かれた教育課程**」や「**個人と社会のウェルビーイングの実現**」といった理念とも深く関わる。

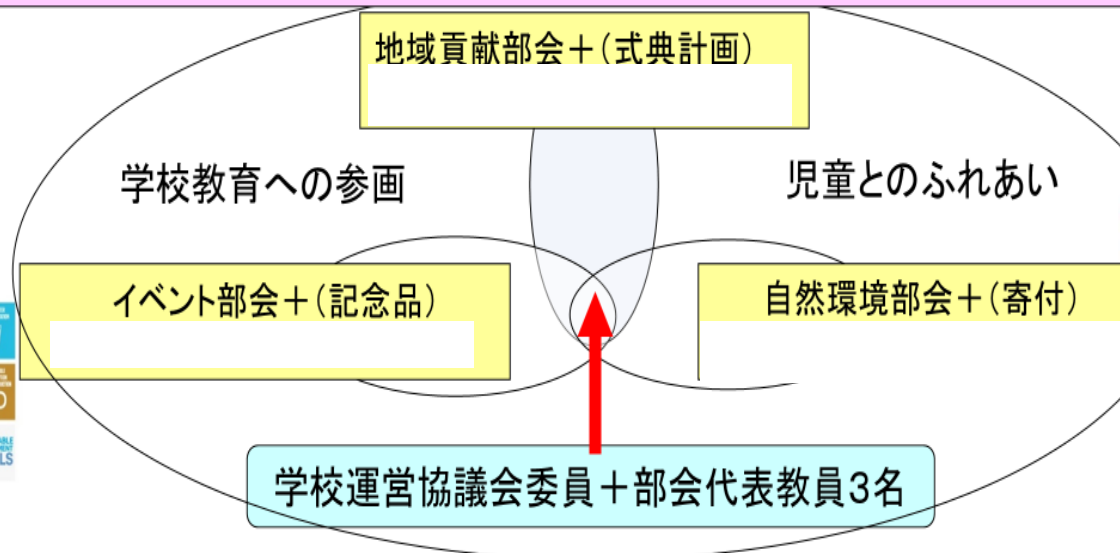
高野口小学校 学校運営協議会 について

学校運営協議会において校長として 優先的に向かっていること！

- ウェルビーイングな学校・地域・社会をつくる
ウェルビーイングの共創
- 児童の成長を願い、地域と連携・協働しながら目指すべき学校教育の実現
教育目標「未来を創る子どもの育成」
- 当事者意識を醸成
合言葉は「Be the player」



令和7年度 高野口小学校コミュニティ・スクール(学校運営協議会委員11名+全教員)



17 パートナースhipで
目標を達成しよう

11 住み続けられる
まちづくりを

地域というドームの中で学校・家庭・地域が協働・連携して子どもを育てる「共育」の創造 「社会に開かれた教育課程」の実践

対話

これを通じて

地域とともにある学校の実現

学校教育の充実、家庭・地域の教育力の向上＝学校・保護者・地域のWell-being

幸せの4つの因子

- 第1因子 やってみよう因子 [自己実現と成長]
目標を達成したり、目指すべき目標を持ち、学習・成長していること
- 第2因子 ありがとう因子 [つながりと感謝]
多様な他者とのつながりを持ち、他人に感謝する傾向、他人に親切にする傾向が強いこと
- 第3因子 なんとなかなる因子 [前向きと楽観]
ポジティブ・前向きにものごとをとらえ、細かいことを気にしない傾向が強いこと
- 第4因子 ありのままに因子 [独立と自分らしさ]
自分の考えが明確で、人の目を気にしない傾向が強いこと

《地域の活性化＝まちづくり》

開校150周年記念を学校・保護者・地域で祝う

CSを成功させるためのポイント

- 校長の教育理念を明確にする
- 学校運営協議会と教職員・児童をつなぐ
- みんなに当事者意識を持ってもらう
- 子どもの変容を共有する
- 振り返りを行い持続させる

学校みんなのお助け隊

がっこううんえいきょうぎかいいいん

学校運営協議会委員

のみなさんです！

まずは
児童や先生に
顔と名前を
知ってもらおう





みんなにアンケートを取って考えています。航空写真やタイムカプセル、記念ライブ等々



150周年に「どんなことしたいの？」

学校運営協議会の更なる活性化をめざして

- 1 学校運営協議会のメンバー人選（バランス）
自走する学校運営協議会に
- 2 教職員の意識改革（他人事から自分事へ）
やらされ感がなく参画できる
教職員全員が学校運営協議会の3部会に入る

学校運営協議会3部会

R6年

R7年(150周年)

地域貢献
部会

イベント
部会

自然環境
部会

- ・ふるさと学習支援
学校行事手伝い

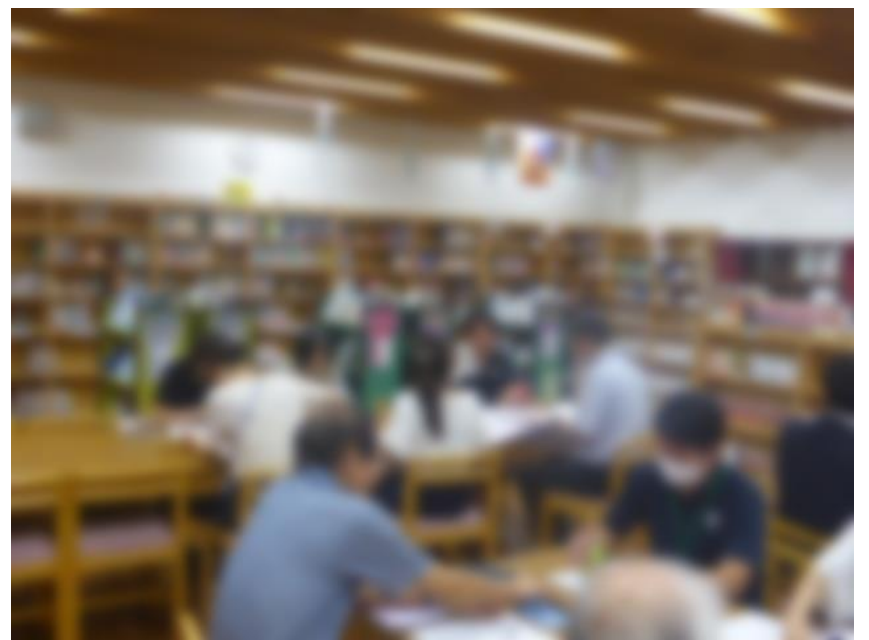
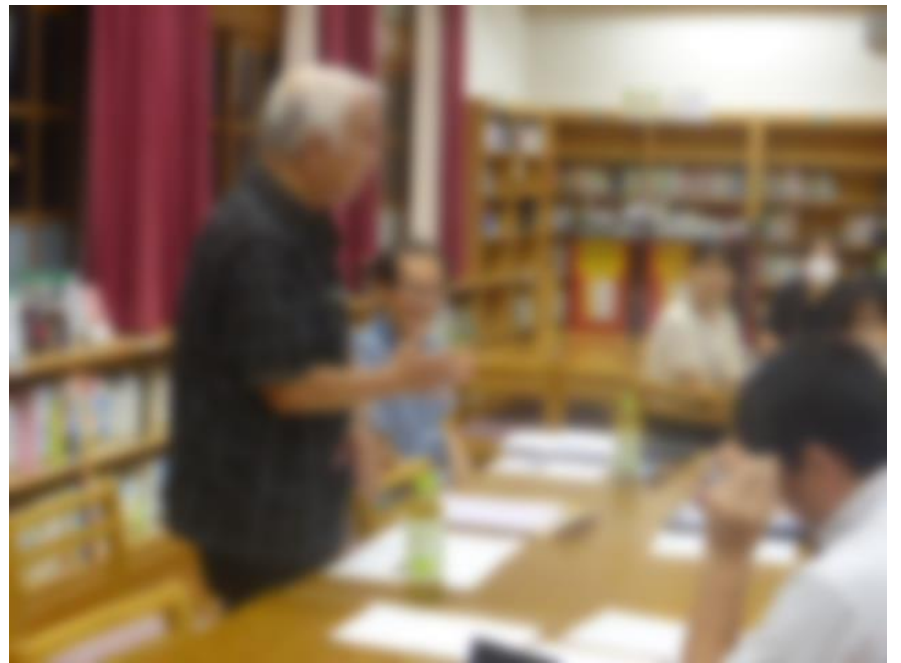
- ・盆踊り練習会
ボッチャ体験会

- ・夏休み竹工作教室
冬の星座鑑賞会

- ・記念式典計画・実施

- ・市制20周年記念
「高野口の魅力再発見
ウォーク&コンサート」
企画・運営

- ・記念映像制作
タイムカプセル
記念品



教職員に大切にしてもらいたいこと

- みんなが役割を持ち、責任ある仕事に主体的に取り組む
- 対話を大切に困り感を話し、自信をもって取り組める心理的安全性を確保し、得意分野を生かし様々な他者と協力する
- 豊かな発想(クリエイティブ)を持ちワクワクしながら取り組む

まとめ

子どもや地域住民が、豊かなつながりの中で、楽しく学び成長することで、みんなが持続的に**ウェルビーイング**を実感できる教育・学習活動をつくることがこれからの学校の使命だと考えます。

そのためにもみんなが当事者意識を持ってクリエイティブにワクワクしながら自走する学校運営協議会が必要です。

地域(学校運営協議会)と学校の関係性を可視化する

図1 地域と学校の関係性モデル

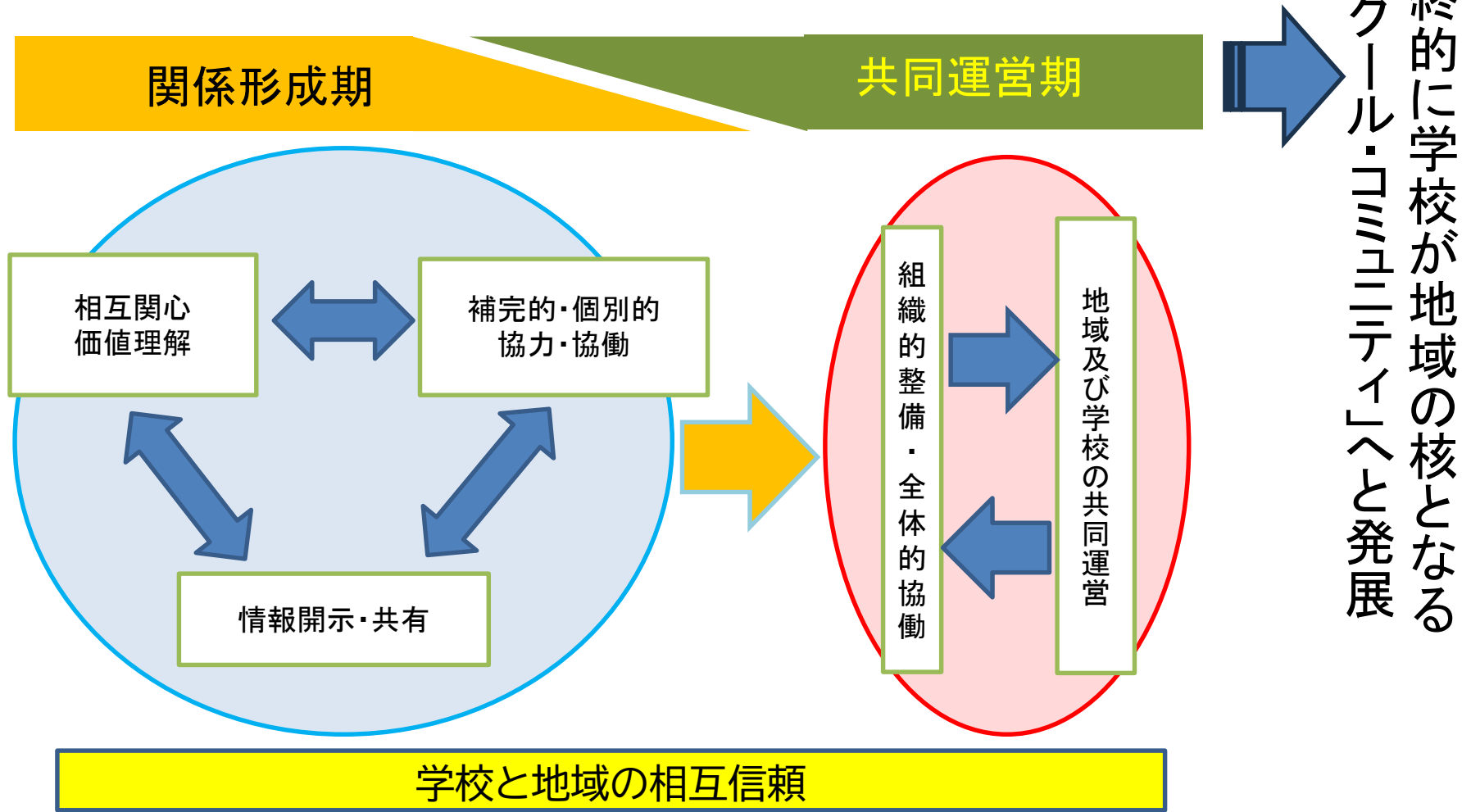
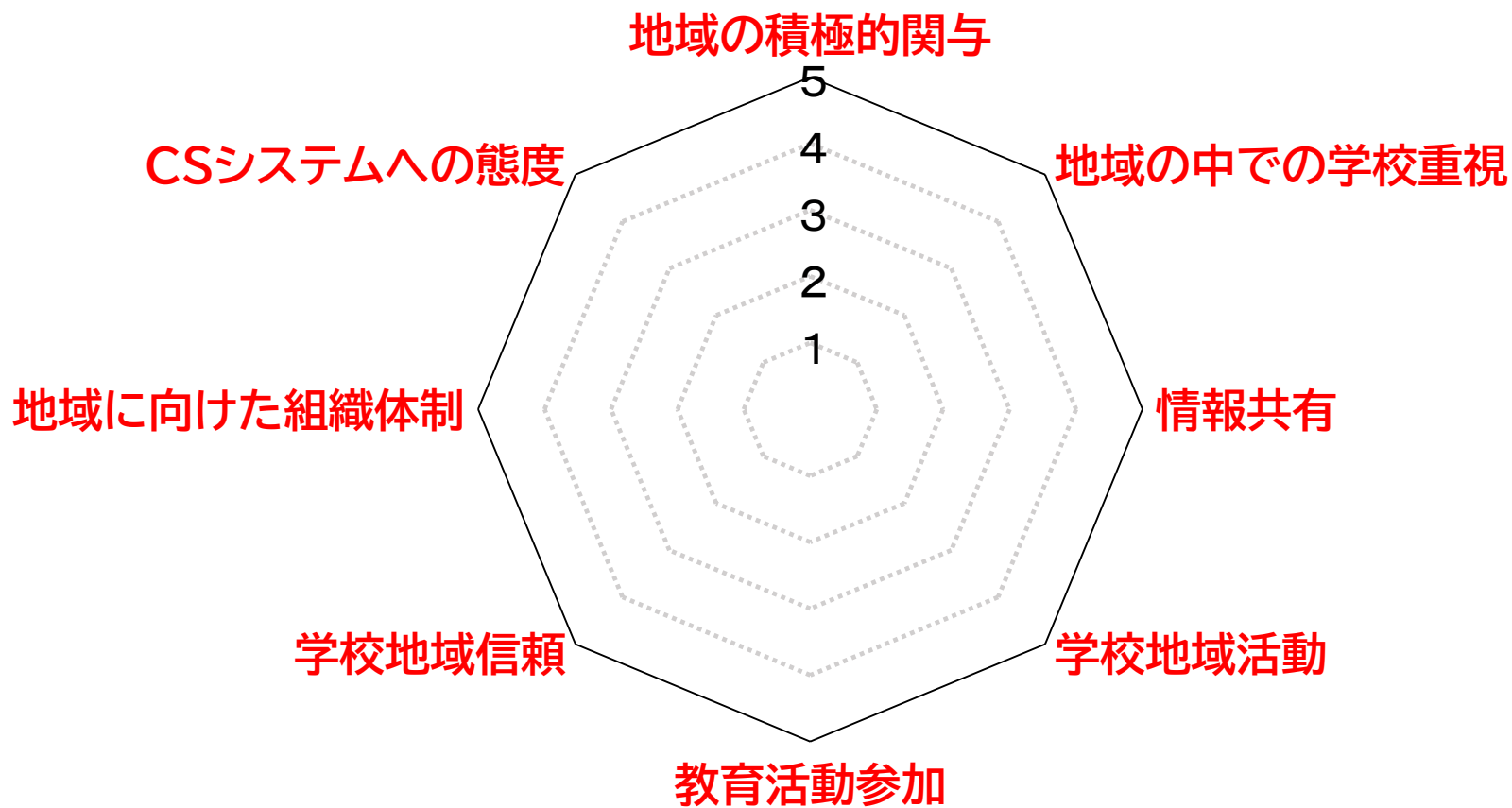


図2 地域と学校の関係性レーダーチャート



地域と学校の間を俯瞰することで、より具体的な方向性を探る

地域と学校の関係性レーダーチャートの活用法

それぞれの地域や学校にどのような要素に強みがあり、どのような要素に弱みがあるかを見える化します

関係形成期に関する視点

- 「地域の積極的関与」は、地域が学校に積極的にかかわることへの意識を問う
- 「地域の中での学校重視」は、地域と学校の連携の必要性や連携することで学校だけでなく地域にとってもメリットがあるという意識を問う
- 「情報共有」は、互いの活動の理解や浸透具合、学校評価の認知や肯定的な捉え方を問う
- 「学校地域活動」は、実際にそれぞれのイベントや活動への参加の有無や意欲、協力依頼への肯定的な態度を問う
- 「学校地域信頼」は、相互の親しみやすさ対話の日常化など、何でも話せる関係性が構築されているかを問う

共同運営期に関する視点

- 「地域に向けた組織体制」は、学校や地域の意見や考えを集約し、共有する有形無形のしくみや雰囲気構築されているかを問う
- 「教育活動参加」は、いわゆる社会に開かれた教育課程にもつながる、地域の人材や素材を活用した授業が展開されているか、そのことに地域の願いが反映されているかを問う
- 「CSシステムへの態度」は、学校運営協議会が担っている役割への肯定的な態度を問う

主語を 地域住民であるあなたは… で問う それぞれの平均値を比較する
教職員であるあなたは…

ご清聴ありがとうございました

